

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

- 成果**
1. 調査研究成果の公開と、研究情報の国際発信
 - ・平成29年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を Japanese Institutional Repositories Online (JAIRO) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』の3タイトル62件を今年度新たに追加し、合計7タイトル3,516件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
 - ・アメリカ・ゲッティ研究所のゲッティ・リサーチポータルに『美術研究』、『日本美術年鑑』、『保存科学』の情報を提供し、掲載件数は636件となった。今後も提供データを増やしていくための調整・協議と作業を進めた。
 - ・平成29年度に引き続き、展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに情報を提供し、今年度は2014(平成26)年と2015(平成27)年の文献情報約6,000件を追加した。
 2. 国内外の関連機関との協働研究・協議
 - ・京都府所蔵資料の情報共有について協議し、昭和初期の資料のデジタル化を行った。
 - ・ゲッティ研究所との共同研究事業によって各種の公開事業を進めたほか、国立歴史民俗博物館で開催された国際シンポジウム「アート・歴史分野における国際的な標準語彙の活用 — Getty Vocabulary Program の活動と日本」に参加し発表を行った。
 - ・日本資料専門家欧州協会(EAJRS)、国際美術図書館会議、アート・ドキュメンテーション学会などに参加し、口頭発表を行い、日本美術の国際情報発信に努めた。
 - ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、講演を行った。

- 発表**
- ・橘川英規：「明治期～昭和期刊行博覧会・展覧会資料のオープン・アクセス化事業」日本資料専門家欧州協会(EAJRS)リトアニア大会 18.9.12
 - ・Tomoko Emura, The Contribution of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties: *Art Bibliography in Japan for OCLC Central Index* (江村知子「東京文化財研究所の情報発信：OCLCセントラル・インデックスへの日本美術文献の情報提供」) 第8回国際美術図書館会議 18.10.5
 - ・橘川英規：「日本の展覧会カタログ論文の国際的可視性を高めるための取り組み：「東京文化財研究所美術文献目録」のOCLCへの提供」アート・ドキュメンテーション学会第11回秋季研究集会 18.10.13
 - ・安永拓世：「与謝蕪村筆「鶯・鴉図」に見るトリプルイメージ」セインズベリー日本藝術研究所 18.11.15



セインズベリー日本藝術研究所での講演会

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人、早川典子(以上、保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人、西和彦(以上、文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、津田徹英、永崎研宣(以上、客員研究員)

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目 的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

成 果

1. 美術史研究のためのコンテンツ(年紀資料集成)を作成するため1999(平成11)年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker を使用して入力を行い、新たに400件を追加した。
2. 本プロジェクトにかかる研究会を外部の研究者を交え、行った。
3. 幕末期の日本製伏彩色螺鈿を対象に、2019(平成31)年1月27日～2月2日にタイ・バンコク都内のワット・ラーチャプラディット、ワット・ナンチャー、タイ国立図書館等において作品の熟覧調査及び写真撮影を実施した。
4. 平成29年度に引き続き、仏教美術等の光学的手法による東京国立博物館との共同研究を実施した。同博物館所蔵の平安仏画につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査を行い、国宝の平安仏画の中でもことに著名な、普賢菩薩像、虚空蔵菩薩像、孔雀明王像、千手観音像について、報告書を刊行した。

論 文・小野真由美、恵美千鶴子：「研究ノート『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と外題」『美術研究』425 pp.21-23 18.7

・小野真由美、恵美千鶴子：「研究ノート『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』翻刻」『美術研究』425 pp.24-34 18.7

・増田政史：「中宮寺文殊菩薩立像について一戒律と春日信仰」『美術研究』426 pp.1-14 18.12

・稲葉(藤村)真以：「韓国画壇の変遷」『美術研究』426 pp.75-92 18.12

・津田徹英：「研究資料 滋賀・浄厳院蔵 木造釈迦如来立像」『美術研究』426 pp.93-110 18.12

・勝盛典子：「伏彩色螺鈿再考」『美術研究』427 pp.85-108 19.3

発 表・小野真由美：「土佐光起著『本朝画法大伝』考一「画具製法并染法極秘伝」を端緒として一」第3回文化財情報資料部研究会 18.6.26

・二神葉子ほか10名：「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会」第4回文化財情報資料部研究会 18.7.30

・京都絵美：「絹本著色技法の史的展開について一仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察」第6回文化財情報資料部研究会 18.11.27

・山本聡美：「病苦図像の源流一静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経変相図」について」第7回文化財情報資料部研究会 18.12.27

・相澤正彦：「静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系」第7回文化財情報資料部研究会 18.12.27

・米沢玲：「二幅の不動明王画像」第9回文化財情報資料部研究会 19.2.28

刊行物・『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画 光学調査報告書』ライブアートブックス 19.3

研究組織 ○小林達朗、山梨絵美子、塩谷純、小野真由美、江村知子、二神葉子、小林公治、安永拓世、米沢玲、橘川英規、小山田智寛(以上、文化財情報資料部)、津田徹英(客員研究員)

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

目的 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

- 成果**
1. 黒田記念館の鑑賞の手引きとなる『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』を編集・刊行した。
 2. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、黒田家・樺山家・旧藩主島津家・杉家・橋口家・篠塚家から差し出された書簡の目録と一部の翻刻を『美術研究』426号・427号に掲載した。
 3. 明治期に活躍した女性日本画家、武村耕靄についての部内研究会を開催(18.4.24)、その成果を『美術研究』427号に掲載した。
 4. 明治～大正期に活躍した女性日本画家、栗原玉葉についての論考を『美術史』185冊(18.10)及び長崎歴史文化博物館で開催された展覧会「新章ジャパンビューティ」図録(18.12)に掲載、同展に際して催されたシンポジウム「栗原玉葉をめぐる物語」に田所・塩谷が講師として参加した(19.1.13)。
 5. カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館に開設した美術評論家のヨシダ・ヨシエ文庫についての部内研究会を開催した(18.5.23)。
 6. 久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳に着手した。
 7. 第52回オープンレクチャーで、藤田嗣治・常玉・陳澄波の描いた裸婦についての研究発表を行った(18.10.27)。



ヨシダ・ヨシエ文庫についての部内研究会の様子

- 論文**・田所泰：「栗原玉葉の《朝妻桜》に関する一考察 その制作意図を中心に」『美術史』185 pp.117-137 18.10
- ・田所泰：「栗原玉葉筆《お夏の思い》考 その色彩表現に注目して」五味俊晶編『栗原玉葉』長崎文献社 pp.204-220 18.12
 - ・田所泰：「武村耕靄と明治期の女性日本画家に関する研究」『美術研究』427 pp.15-78 19.3
- 発表**・田所泰：「武村耕靄と明治期の女性日本画家について」第1回文化財情報資料部研究会 18.4.24
- ・橘川英規：「カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供—ヨシダ・ヨシエ文庫を例に」第2回文化財情報資料部研究会 18.5.23
 - ・山梨絵美子：「裸婦に表された地域性 フジタ・常玉・陳澄波を例に」第52回オープンレクチャー 18.10.27
 - ・塩谷純：『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』印象社 19.1

刊行物

○塩谷純、山梨絵美子、橘川英規、城野誠治、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、三上豊、丸川雄三、

研究組織 田中淳、齋藤達也、田所泰(以上、客員研究員)

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

目 的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待される。

- 成 果**
1. 螺鈿及び漆器類に関わる調査研究等
 - ・4月26日と7月31日、日本民藝館において朝鮮製螺鈿漆器の調査を行った。
 - ・5月8日、川越市立博物館にて三芳野神社縁起絵巻調査及び同館学芸員との意見交換を実施した。
 - ・5月10日～12日に韓国国立中央博物館からの依頼により渡航し、同館所蔵高麗螺鈿香箱の復元に関する助言を行った。
 - ・6月28日に東京大学総合研究資料館小石川分館にて関野貞資料の調査を行った。
 - ・7月2～3日に韓国国立中央博物館保存科学部朴研究員の来日調査について助力した。
 - ・8月2日・23日、個人蔵琉球製箔絵簾盆2枚について、研究協議及び当研究所保存科学研究センターとの共同調査を実施した。また11月1日・3日及び2月26日に沖縄で関連作品調査を行った。
 - ・3月4～5日、南蛮文化館及び堺市博物館ほかにおいて漆器などの調査を実施した。
 - ・旧所員故柳澤孝氏寄贈写真類の整理作業及びそのデータベース化作業を行い今年度末までに約3,200件を終了した。
 2. 研究成果公開
 - ・7月7～8日、日本文化財科学会（奈良女子大学）において、奈良国立博物館ほかとの共同研究成果である「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」のポスター発表を行った。
 - ・10月2日に開催した第5回文化財情報資料部研究会において、金沢大学の神谷嘉美氏より「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—」と題した発表を実施した。
 3. 研究データの整備と公開
 - ・インターネットで公開している『美術研究』データについて、未公開であった英文要旨をpdf公開し、英語による研究情報検索の便宜を促進し拡充を図った。また、英文要旨のない155号以前を対象とした検索用キーワードの抽出作業を開始した。

論 文・高田知仁：「螺鈿と王権—近世近代タイ装飾美術の含意」『美術研究』426 pp.25-74 18.12

報 告・鳥越俊行ほか：「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」『日本文化財科学会第35回大会研究発表要旨集』18.7

発 表・鳥越俊行ほか：「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」日本文化財科学会第35回大会 18.7.6

- ・神谷嘉美：「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—」第5回文化財情報資料部研究会 18.10.2

研究組織 ○小林公治、山梨絵美子、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、野城今日子（以上、文化財情報資料部）、佐野千絵、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）、田所泰、中野照男（以上、客員研究員）

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成果**
1. 無形文化財に関する調査研究
 - ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
 - イ) 工芸分野：靱皮繊維の製作技術に関する調査（沖縄県立博物館、貝澤雪子氏工房）、及び絹糸製作技術調査（岡谷蚕糸博物館）



共催事業「伝統の音を支える技」の様子

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
 - ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席・林家正雀師4席）
 - イ) 古典芸能：平家（菊中央雄司氏ほかによる復元曲1曲）及び宮園節（宮園千碌氏ほかによる古典曲1曲、新曲1曲）の実演記録を作成

3. 研究調査に基づく成果の公表
 - ア) 東京邦楽器商工業協同組合・東京文化財研究所共催事業「伝統の音を支える技一第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座」(東京文化財研究所、8月3日)
 - イ) 総合研究会「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵音声資料のデジタルアーカイブ化に向けて」(東京文化財研究所、1月8日)



総合研究会の様子

- 論文**・前原恵美：「江島弁財天信仰と常磐節演奏家一浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集の図〉を起点に」『桐朋学園大学研究紀要』2018年第44集 pp.81-102 18.10
- ・飯島満：「『故文耕堂之本作』訛伝考」『無形文化遺産研究報告』13、pp.70-86 19.3
- 報告**・前原恵美、橋本かおる：「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告2」『無形文化遺産研究報告』13 pp.23-46 19.3
- 発表**・菊池理予：「無形文化財の視点からみる染織工芸技術について」共立女子大学博物館 19.1.26
- 刊行物**・「共催事業『伝統の音を支える技一第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回 東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座』報告書」東京文化財研究所 19.3
- ・「日本の芸能を支える技」Ⅰ琵琶・Ⅱ三味線象牙駒 東京文化財研究所 18.7
- ・「日本の芸能を支える技」Ⅲ太棹三味線・Ⅳ雅楽管楽器 東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○飯島満、前原恵美、石村智、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、橋本かおる（客員研究員）

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(402)

目 的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

成 果 1. 風俗慣習の調査として正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術の調査として和船の製作技術や箕の製作技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。



日置箕製作の様子

2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、福島県浪江町、宮城県女川町にて継続的調査を行い、資料収集・記録保存を行った。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
3. 第13回無形民俗文化財研究協議会を「いま危機にある無形文化遺産—無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐって」をテーマに東京文化財研究所において開催し、129名の参加を得た。4件の事例報告をもとにコメンテーター2名を含めた総合討議を行った。成果は『第13回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また民俗芸能の継承者を招いて「祭ネットワーク」を株式会社オマツリジャパンと共催で2度開催。継承の現状と課題の共有・討議を行った。成果は『祭ネットワーク報告 シシマイ×シシマイ』にまとめた。
4. 選定保存技術については、未選定の文化財の保存技術の調査として、友禅の下絵に用いる染料である青花紙の製作について滋賀県草津市と共同研究を実施し、その成果を報告書として刊行した。また滋賀県長浜市において滋賀県教育委員会の協力のもと、曳山金工品修理技術（滋賀県選定保存技術）の調査と映像による記録作成を行った。

論 文・今石みぎわ：「箕づくり技術の継承と変容を考える—「箕サミット—編み組み細工を語る」の試み」『月刊文化財』655 文化庁文化財部 pp.41-43 18.4

刊行物・『祭ネットワーク報告 シシマイ×シシマイ』 19.3

・『青花紙製作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ』 19.3

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予(以上、無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池健策、宮田繁幸、神野知恵(以上、客員研究員)